

# 入中1年人権だより

徳島市 八万中学校  
1年生 第16号  
2022年 2月27日  
編集・文責 吉成正士

(15号からの続きです)

## 同じ授業をしても、全然違う

■この全体学習を通して、同じ授業をクラスでしているはずなのに、話していること、感じていることは全然違うことが分かりました。人権学習では正解がないので、とてもいいことだと思いました。

一番心に残ったのは、周麟さんの言った「山を築き樹木を植え石を配すること天下第一である」という言葉でした。室町時代では平均寿命が30才ぐらいなのにも関わらず、97才まで生きていろいろな経験を積んでいるからこそ、この言葉ができたのだと思いました。

あと吉成先生の言った、差別やいじめがなくなったわけではない。「無知は差別を生む」で、この学習をしなかったら差別という言葉も知らなかったと思うし、意味も知らなかったと思うので、経験を積み重ねていくと、「差別は～だからだめ」と言うことができると思うので、これら聞いて終わりにするのではなく、実際にできるように頑張りたいです。  
(6組OK)

おそらく善阿弥は、97年という歳月を生きていくなかで、いろんなことを知り、学び、感じ、考え、苦勞を重ねながら、「天下第一」と言われるまでに達したのだと思います。又四郎が言うように、差別という逆境もあったと思います。それでも人としての生き方を自らに問い続け、「天下第一」の境地にまで辿り着いたのではないのでしょうか。そんな生き様から学びとって、私たちの生き方に生かされないのでしょうか。

私がいつも思うこと。それは、「負けたくない」ということです。何人かの人が授業での発言で、「私はこのようなことはできないと思います。」とか、「僕はできないと思いました。」と言ってくれました。でも、自分で自分の可能性にフタをするのは、もったいないことだと思いませんか。

「あなたって〇〇だね」と、他人が私のことを評価することがあります。そのとき私は思うのです。「勝手に私のことを決めつけなさい」と。差別もそうです。相手のことをよく知りもせず、勝手な自分の思い込みで決めつけ、他人に押しつけることが、差別につながっていきます。「あなたに私の何が分かっているの?」と言いたくなります。人の意見を聞かなくてもいいというわけではありません。聞きつつも、「それがすべてではない」という可能性を持っておくことが大切なのではないかということです。もちろん、自分で自分を決めつけ、自分の持っている可能性にフタをしてしまうことも、もったいないことです。

自分も他人も決めつけてしまわないこと。可能性の扉を閉じてしまわないこと。扉さえ開けていれば、どんな可能性が広がっていくかもしれないのですから。

人権学習を通して、部落出身の人も含め、多くの被差別の人たちと出会うなかで、「勝てないし、かなわない」と思います。けど、「同じ人間として負けたくない」

とも思います。そもそも勝ち負けの問題ではないのですが、それでも人として、「負けたくない」と思うのです。でもそうやって、互いに成長できる関係ができていけば、みなさん自身も、この学年も、もっともっと素晴らしいものになっていくのだと思います。

## 他人のことを言う前に、まず自分

■私は部落差別のことを学んで、又四郎の「私は心から差別される家柄に生まれたことを悲しく思う。だから殺生はしないように、物欲は持たないようにする」という言葉が一番心に残りました。この言葉について吉成先生は、「差別は金、人、物などを粗末に扱ふこと」と考えていました。私はこの言葉を聞いて、「自分は金、人、物などを大切に扱えているのかな」と考えてみました。考えてみると、大切に扱えていないこともあるなど反省しました。大切に扱えないというのは、差別をしている人と同じだと思うので、軽い気持ちで「差別をしてる人たちはおかしい」と言うのじゃなくて、まずは「自分は差別に値することをしていないか」ということを考えていきたいです。

最後に吉成先生が言ったように、「自問自答」することで、人のことの前に、自分はできているかを問うようにしたいです。そして、こういう授業だけで終わらずに、ずっと学び続けていきたいです。  
(6組IH)

授業の発言にも、

「私は欲しいものがあつたら、お金をすぐに使っちゃうし、物もあんまり大事に使えてないしで、大切に扱えてないので、そしたら私も差別に値してしまうのかなって思って、ちょっと深く考えることができて、これからの生活を見直すので、そういう話を聞いて良かったなと思いました。」

という発言がありました。人の意見を聞いて自分を見つめ直し、考え、正していくことができる。それは何よりの効果です。誰かから注意を受けたり、指導を受けたりすることもあるのですが、自らに問い、気づき、正す。自分を変えるのに、これほど効果的なことはありません。誰かの気づきが、自分の気づきにつながるということです。

それに、誰かの発言を引用して自分の発言をする、ということも、授業中にありました。人の話がよく聞いている証拠です。具体的にみなさん同士がつながっているように感じられて、いいなーと思いました。それらも、語り合い学び合うこの学習の、醍醐味ですね。

「学び続ける人は無敵」です(笑)。けど本当にそう思います。だって、成長することが止まらないわけですから。他人と比べると、まだまだだなあと思うこともあるかもしれませんが、でも、人と比べるのではなく、自分がどう成長するかが大事なわけですから、それだけで十分なのではないでしょうか。

## であるならば、今がそのとき

■私は今回、中世の差別を学習して学んだことは、昔

の人と今の人では、ケガレに対する考え方が違うということです。私は根から差別をなくしていかないと、また何十年後、何百年後かに、もう一度差別をする人間が出てくると思います。でも私たちだけでは差別はなくならないので、世界の人々が一人一人行動に責任を持って行動することが大切だと思います。私はこういうことを言うだけではなく行動にすることが一番大切だと思いました。差別を他人事だと考えずに、知識を得て、それを語り合う必要があると思います。

今の私たちは差別を「マイナス」から「ゼロ」に近づけてきた。でもなくなったわけでもない。これからの私たちで「ゼロ」を「プラス」にできるようにしたいと思います。人権学習は一時で燃え尽きずに、これからも学び続けて考え続けようと思います。私は今までの人権学習でたくさんのことを学べて良かったです。(1組KM)

では、あなたは何を語るか？

「自分を語る」ことです。でも自分の何を語ればいいのか、語ることが思い浮かばない、という人もいます。自分の中にある「痛み」、今まで自分が抱えてきた「痛み」に気づき、カミングアウトできる人もいれば、自分にはそんな経験はない、経験はあっても自分はまだ言えない、という人もいます。人それぞれです。であるならば、せめて言葉を返し、言葉を重ね、言葉でつながることをしていきませんか。行動に移すことはどうしても必要なことです。それができるようになるタイミングも人それぞれではありますが、いずれにしても、行動に移すこと、「行うこと」です。

トルコで大地震が起きました。さあみなさん、どうしますか。何をしますか。何もいませんか。近くの国内のことであれば関心を強く持っても、遠くの地球の裏側のことであれば関心を寄せませんか。であるなら、これまで人権学習を積み重ねてきた意味が生きていないということになります。遠くのことを、我が事のように感じることを大切に学んできた私たちでなかったでしょうか。であるなら、何かアクションを起こしてもいいのではないかと思います。

思うことは大切です。その前に、知ることも大切です。でも、知るだけ、思うだけでは何も起こらないことも学んできました。行動に移すことの大切さを学んできました。ヒトゴトからワガゴトへ。今、自分にできること。そのことを実行に移せる人になっていきませんか。

## 4月・新クラス・自分が試されるとき

■私が今回の人権学習で一番心に残っていることは、「学び続けることを学ぶ」ということです。今回の人権学習ではケガレや差別について学びましたが、私たちはいつもその学習をする時間だけその問題に真剣に向き合っていて、それだけでは差別はなくなっていくません。だから今回、吉成先生がおっしゃっていたように、「自問自答」をして燃え尽きない勉強をして、差別を減らしていこうと思います。

今回の人権学習でのみんなの意見を聞いて、人の意見を聞いて物事を考え直すことは大切だと感じました。この時間は自分では考えることができないようなことをたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。そして、これから自分は何を考えながら生きていくとよい

のかを考えるきっかけにもなったので、とても良かったと思います。これから私は、自問自答を繰り返し、燃え尽きない勉強をして、差別をなくしていけるようにしたいと思います。(3組MF)

熱は冷めます。その冷めた熱をどうするのか。

4月、あなた自身の主体性が問われます。それは4月に急にできるものではありません。そのための心の準備を、今、当たり前にしていくことです。それは何も人権学習だけの話ではありません。教科の学習もそうです。日々の学習、毎日の過ごし方、人との関わり、それに4月から始まる新しいクラスづくり。そのすべてにおいて、あなたの主体性が問われるのです。ただ、「人権学習」という視点は置き去りになることがあります。そうならないことを祈り、期待したいと思います。できることなら、みなさん自身が人権学習の時間を語り合いながら進めていけるようになることが理想です。

人権学習の教科書「わたしの願い」の95ページに、「なんでこうなるの!？」という資料があります。四コママンガ4作品があるのですが、どれも人権に深くつながっているということで掲載されています。その中の一つが、「ひとまとめに見る」です。

①ブタたちがのどかにくらしている

②ある日、柵がつくられた

③しばらくこうして(柵で分けられて)暮らすと

互いに「西のやつら」「東のやつら」と呼ぶようになった

④柵をとったあとも

「西から来たやつ」「東から来たやつ」と呼んでいる

人間の思考や行動のおかしさを描いているのですが、似た話をしてくれた人がいました。どこか、真理を突いているような気がします。

また、「僕の欲しいものは車の免許」と言ってくれた人もいました。それについて私から、「みんな車の免許が取れるつもりでいるけど、免許が取れずに生きていかざるを得なかった人たちもいた」という話をさせてもらいました。そんな話が、ちょうど四コママンガの右のページに、「書けなかったのはなぜ」「識字学級のあゆみ」というタイトルで書かれています。

ただ、「貧しかった」というだけでなく、差別によって学ぶ機会を奪われ、学べなかったから特定の仕事にしか就けず、そのことから生活が安定せず、将来にも希望が見出せない。そんな人生を取り戻すために、識字学級や夜間中学校があるということを紹介してくれています。そんな現実も、みなさんに知ってもらえたらなと思います。



京都盆地、南北に貫く鴨川。その東側に位置する慈照寺・銀閣寺の石庭。対して西側、金閣寺近くにある龍安寺の枯山水、「吾唯足知」のつくばい。嵐山に端を発する桂川に架かる、渡月橋河川敷あたりで暮らしたとされる、それらの制作に携わった山水河原者、善阿弥たち。そんな、「古」を生きた人たちに思いを馳せながら、いつか古都・京都を旅するのもいいです。

この1年、ずいぶんと成長した姿を見せてもらいました。頼もしく感じながら授業をさせてもらいました。2年生になっても、いくつになっても、学び続けるみなさんであり続けてください。1年間、本当にありがとうございました。(おしまい)